

# 30周年記念式典



# 創立30周年記念式典開催のご報告

滋賀県立精神医療センターおよび滋賀県立精神保健福祉センターが今年創立30周年を迎えるにあたり、開設時から永らく両センターを支えた職員およびご尽力いただいた関係者の方の思い出に残る機会を設けたいという思いから、令和4年11月5日（土）滋賀県立精神保健福祉センター研修室において、両センター創立30周年記念式典を開催いたしました。



当日は来賓4名、関係機関の方7名および精神医療センター職員35名、精神保健福祉センター職員6名の出席がありました。

会場前の廊下には滋賀県立精神保健総合センター開設時の写真が展示され、出席者の方からは、それぞれの思い出を語られる声が聞こえてきました。

式典は、精神医療センター柴宮裕次長の開式の辞より始まりました。



精神医療センター大井健院長からは、「歴代院長の光と影」と題した講話がありました。センターの発展の影にそれぞれの院長の惜しくも実現できなかった思いがあったことなど、歴代院長と大井院長の関わりを含めて語りました。

来賓祝辞では滋賀県健康医療福祉部丸山英明次長に祝辞をいただきました。丸山次長は平成11年度から3年間精神保健総合センター（現 精神医療センター）診療局生活療法科に在籍いただいていた。お話の中では、現場での患者様との関わりで学んだことがその後の施策に活かされていることや、県庁に戻られた後のセンターとの繋がりなどをお話いただきました。



「写真で振り返る精神医療センター30年のあゆみ」では精神医療センター看護部藤野裕子副部長がスライド形式で合計138枚の写真のエピソードを紹介しました。写真には現在も勤務している職員の開設当時の姿もあり、出席していた職員が直接インタビューされるなど、会場は和気あいあいとした雰囲気になりました。



滋賀県立精神医療センター  
よりそい、ささえる

「ロゴマーク、キャッチコピー披露」では、令和4年度に精神医療センターで作成したロゴマークとキャッチコピーを紹介しました。ロゴマークとキャッチコピーはともに職員投票により選定され、ロゴマークは滋賀県東北部工業技術センター職員作成のデザインとなり、キャッチコピーは精神医療センター職員考案の「よりそい、ささえる」となりました。



精神保健福祉センター所長講演では、辻本哲士所長の講演がありました。辻本所長からは、臨床現場で患者様から多くのことを学ばせていただいたこと、精神保健福祉センターでの救急医療ネットの立ち上げ当時のこと、滋賀県は福祉現場の地域の力が強いということ、一方医療観察法病棟で一人の患者様を深く治療することなどの、様々なお話がありました。

閉式のことばでは病院事業庁の正木隆義庁長よりお話をいただきました。正木庁長からは今回の式典を準備し開催するまでの職員への労いのお言葉や、今後の両センターの発展に向けての励ましのお言葉をいただきました。



今回の式典は、これまでの歩みを振り返るとともに、これからの滋賀県の精神保健医療福祉のあり方について考える機会となりました。今後も両センターの発展に向けて、職員一同力を合わせて前進していきたいと思います。